

# 紙版 ハコブネ×ブックス vol.21

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



## グンダール ここは魅惑の博物館

作者 榎崎 茜  
出版社 理論社  
発行 2018年10月  
ISBN 978-4652202845

review



県立自然史博物館を職場体験の実習場所を選んだ中学生五人。博物館に興味がなく、あまり親しくもない同級生たちとのグループ実習に盛り上がらないまま、仕事をしながら感じたことがそれぞれの視点で語られていきます。フライドチキンの骨を集めてニワトリの骨格を復元する展示企画に協力したり、カピバラを放牧して草を食わせたり、化石探しをしたりと、仕事を手伝う中で、中学生たちは博物館で働く人たちのスピリットを感じとっていきます。この魅惑の場所に強い思い入れを持ち情熱を傾けている大人たち。学芸員だけではなく、パートさんやボランティアなど様々な立場の人が働き、時には対立もある職場です。ドライで等身大の中学生たちが、働く大人たちと抱えている気持ちを発見していく姿が描かれます。

特集

# お仕事体験隊

学生の自分は勉強です。とはいえ、教室で授業を受けていることだけが勉強ではありません。近年、キャリア教育が推進されるようになり、職場体験やインターンシップなど、働くことの意味を考えさせる学習活動がとりいれられてきました。教育カリキュラムの一環としてだけではなく、アルバイトや家の販売を手伝うこともまた得難い経験となります。大人が働いている世界に足を踏み入れるには勇気が必要です。自分に何ができるのか向きあうことにもなります。その緊張や興奮を児童文学は伝えてくれます。子どもたちは職場に出ることで、大人がどんなマインドやスピリットを持って働いているかを知ります。人はひとりで働くことはできません。誰かと一緒に働くためには、お互いの仕事への矜持を理解し、リスペクトすることが大切です。主人公である子どもたちの前に広がる新しい世界を、一緒に体験してください。



## 恋とポテトと夏休み Eバーガー1

祝 第45回児童文芸家協会賞受賞

作者 神戸 遥真  
出版社 講談社  
発行 2020年4月  
ISBN 978-4065191156

review



高校受験に失敗して志望校に入ることができなかった優芽は、部活にも入らず、一学期を無為に過ごしていました。大人しい性格で、親しい友だちもできないまま迎える夏休みには何も予定がありません。一学期最後の日、ちょっとした偶然からバイト募集に応募してきた子と勘違いされた優芽は、ハンバーガーショップチェーン、Eバーガーでアルバイトを始めることになります。引つ込み思案な自分に接客業ができるのかと悩んだり、覚えが悪いことを叱られるながら、緊張のうちに働く日々が過ぎていきます。親ほどの年齢の人や、外国人、フリーターなど、これまで関わることがなかった人々とバイト仲間になった優芽は、学校では味わえない連携プレーを体感します。挫けそうになりながらも困難を克服して成長していく、仕事に恋に青春全開のアルバイト物語です。



## オレたちの明日に向かって

作者 八束 澄子  
出版社 ポプラ社  
発行 2012年10月  
ISBN 978-4591131053

review



個人で保険代理店を営んでいる今井さんからライブプランニングについての特別授業を受けたことで、中学二年生の勇気は、自分の将来を考えるきっかけを与えられます。そこで勇気は、ジョブトレニングで働く場所を選ぶ際に、今井さんの保険代理店で仕事をしたいと申し出ました。保険は人に安心を与えてくれるものですが、保険金詐欺などで悪用されることもあり、保険代理店を営むことは一筋縄ではいきません。それでも今井さんは、人を生かすための保険を標榜して働いています。自分が同行したことでお客さんを和ませることができたり、勇気も働くことへの欲びを知ります。物腰柔らかく、人あたりのいい今井さんが隠し持っていた決意や信念に、勇気もまた感化され、明日に向かって生きていくことを決意する希望に満ちた物語です。時折、物語にインサートされる今井さんの業務日誌も出色です。



## 天使のにもつ

作者 イトウ みく  
出版社 童心社  
発行 2019年2月  
ISBN 978-4494020553

review



中学二年生の風汰が職場体験の実習場所をエンジェル保育園に決めたのは、楽ができそうだったからです。だって、子どもと遊んでいるだけでいいんだし。そんな軽いノリの風汰は、自分の選択をすぐに後悔することになります。実際、〇歳から五歳児までの子どもたちの面倒を見ることは大変です。ふざけた髪型だらない返事とアホさ加減を保育士さんたちから呆れられながらも、子どもたちからは好かれて受け入れられていく風汰。中でも、しおん君という大人しい子が家で虐待されているのではという疑念を抱きはじめています。家庭のことには積極的に干渉しない保育園のスタンスに戸惑いながら、風汰はその真意がどこにあるのかを考えていきます。いい加減ながらも、弱者への優しさ正義感を持つ風汰の心に兆していく変化が見どころです。

特集  
お仕事  
体験隊



林業少年  
(堀米 葵)  
新日本出版社 2013年

子どもが家の販売を手伝うという仕事体験もあります。小学生五年生の喜樹の家は林業を営んでいました。木を育て、伐り倒し、売す。祖父がそれぞれに真剣に取り組んでいることに、喜樹は心を動かされます。長い年月を木と寄り添い育てていく仕事に、喜樹は家業の真髓を知り、山に宿る命を体感します。色々な仕事の働く欲びを知る物語があります。

## 紙版「ハコブネ×ブックス」vol.21

2021年6月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作、語々を受賞。



Twitter  
連携して  
います。  
@tomoostretch